

## 輪郭に水音

黙浴と書かれた紙でつくられた静寂の輪郭に水音

平凡の地獄を抜けて温泉という名の熱い地獄が沁みる

何もかも受け止める海ではなくて私ひとりを許す温泉

それぞれの父親や兄、弟が身体を洗う背中が並ぶ

洗われる知らない親父の背中には黒子と暮らし、プライドがある

流すもの 疲れ、しがらみ、汗、邪念、いま泡立てた全身の泡

何回も押しして水を出す何回も絞って薄いタオルを洗う

疲れてる身体で沈む温泉は「浸かる」ではなく「飲み込まれる」で

浴槽は鯨に似てる大きくて抱えきれないものなどなくて

体内に沈んだ鉛ゆっくりと溶け出す 桶の音が響いて

湯に浸かり忘れてしまうこれからお金を払い生きていくこと

この心、この肉体と離れては許しや癒し、救いを求め

ここにある水を底まで抜いてなおこの場はきつと温泉であり

怒ったり泣いたりしたりこの身体いつも私がんばってるなあ

温泉はぬるむことなく熱いまま 誰かがかけた魔術のようで